

配達のフレームにおける「届く」の位置づけ

- 「届く」のコアは配達フレームにおいて到着時点に視点が置かれたものである。
- したがって到達することによって生じる結果も含意される。
- 物品については感謝の気持ち、伝達内容については説得されることが起こりうる。
- 配達によらないメールは拡張。直接受け取る電話には用いられない。→「* 彼から電話が届いた。」
- 到着の時点と宛名の人を手にする時点との間にタイムラグがある。
- 差出人と受取人の直接接触がない。
- 留守でも受け取れる郵便受け(メールについても同様)が完備している。



配達のフレームにおける「届く」の位置づけ

- ・留守番電話はどうか。
- ・留守番電話は無標ではない。
「*留守電が届いた」→届いたことを認識する人が必要

配達のフレームにおける「届く」の位置づけ

【「届く」に関する格助詞】→着点に視点

- ・二格名詞(例:私に)は出ないことが多い。
- ・出る場合には[ウチに]など場所名詞で出る。
「私に届く」はいえない。
ひとを出すときには[ダレ宛に]という表現が可能。
- ・カラ格名詞が現れることができるのは到着した物品
についている発送者及び発送地に関する情報を得
ることが出来るからである。
「恋人から花束が届いた」



配達のフレームにおける「届く」の位置づけ

- ・マデ格名詞は届きにくいところまで到達するという意味で用いる

「天まで届く鏡餅」

「腸まで届く乳酸菌」(乳酸菌の効果が腸まで及ぶ)

「奥まで届く」

→離れたところに達する。行き着く。

配達のフレームにおける「届く」の位置づけ

- ・自発的に到達する場合には用いることが出来ない。
 - 「* 太郎が届いた」→「太郎が着いた。」
 - 「* 列車が届いた」→「列車が着いた。」
 - 「* 囚人が届いた。」→「囚人が着いた。」
 - 「死体が届いた。」「遺骨が届いた。」
- ・配達人を表現しにくい(通常配達人は意識されにくい)
 - 「親友の結婚式招待状が
 - { *いつもの郵便配達人によって /
 - * ?いつもの郵便配達人の手で}届いた」